

George Colligan Trio

ニューヨークの第一線で活躍する精鋭ジャズマン3人が織り成す
創造性豊かな即興演奏と躍動感に満ちたリズムが鮮やかなサウンドを生み出す。

Profile

ジョージ・コリガン

George Colligan : piano

ニュージャージー州サミット生まれ。
最初に手にした楽器はトランペットでボルティモアの「ピーボディー・コン サバトリー・オブ・ミュージック」を卒業。その後、ピアノに転向し、ボルティモア、ワシントンDC等でフリーランスとして演奏活動を行う。

'95年にニューヨークへ移り、ゲイリー・パート、エディー・ヘンダーソン、マイケル・ブレッカー、ニコラス・ペイトン、クリスチャン・マブライド等、多くのミュージシャンのツアーや、レコーディングに参加している。

'99年~'02年に在籍したグラミー賞に輝いたボーカリスト「カサンドラ・ウィルソン・バンド」での活躍は特筆に値する。

現在、フリーランスとしての活動に重点を置き60枚を超えるレコーディングに参加の他、「Steepchase」、Fresh Sound」等のレーベルから10数枚のリーダー作をリリースしている。

また、'04年「原朋直ニューヨーク・カルテット」の一員としてツアーに参加し各地で存在感のある演奏を披露した。

ニューヨークのジャズ・シーンで活躍するファースト・コール・ピアニストの一人である。



ボリス・コズロフ

Boris Kozlov : bass

ロシア共和国モスクワ出身。

1991年にニューヨークへ移住。

その卓抜したテクニックと豊かな音楽性で、程なくニューヨークのジャズ・シーンでは欠かす事の出来ない存在となる。

ジャズ・ベース界の巨人、故チャールズ・ミンガスを信奉しており「ミンガス・ビッグ・バンド」に在籍しチャールズ・ミンガスが愛用したベースを借り受け、ライブやレコーディングなど様々なステージで活躍している他、ボビー・ワトソンやマーロン・サイモン・ブライアン・リンチ等と共演。また、ラテン・ジャズの分野では、レイ・バレットのバンドに参加。

'01年「ブライアン・リンチ・カルテット」の来日ツアーに参加する。

その後、「マイケル・ブレッカー・バンド」に参加し、アレンジャーとしても活躍する。

力強く伸びるサウンドと美しいボウイングが高く評価されているベーシストである。

また、日本のポップス界でも、マンデイ・ミチルやモンドグロソ等のレコーディングに参加する等、多方面で活動している。



ドナルド・エドワーズ

Donald Edwards : drums

ルイジアナ州モンロー生まれ。

11歳の頃からドラムを始め、サザン大学で音楽教育を受ける。

その後、ニューオーリンズ大学で教鞭に就く傍ら、ドラマーを志す学生たちを指導する。

'92年から、マーク・ホイットフィールドのレギュラー・ドラマーとして活動し、『フォーエバー・ラブ』のレコーディングに参加。

'97年に初リーダー作『イン・ザ・ヴァーナキュラー』をレコーディング。グラミーを受賞したニコラス・ペイトン、ウエッセル・アンダーソン、マーク・ホイットフィールド、ピーター・マーティンという豪華な顔ぶれを揃えた鮮烈なサウンドが話題となる。

'02年、自己のクインテットによる来日ツアーを行い、その超弩級のサウンドでモンスターぶりを披露し訪れた聴衆を釘付けにする。

また、来日中にレコーディングを行い『ダック・トーンズ』としてリリース。緻密な構成を配した躍動感あふれるダイナミックなサウンドで話題を集める。

その後、「ダスコ・ゴイコピッチ・インターナショナル・ジャズ・クインテット」「ジェシー・デイビス・カルテット」の来日ツアーに参加し絶妙のサポートぶりを発揮する。

類希なる緻密なグループを叩き出すドラマーである。

